

事業のタネシート

活動地域・団体名：環境アニメイティッドやお

事業名称1：八尾廃校SATODUKURI BASEの運営及び生態系資源を活用した商品・体験の開発

あらすじ

高安の生物多様性を伝えたいが十分な場の整備ができていない、間伐はしているが、材木として使えていない、タナゴの保全のためには、無農薬の農家が増えて欲しい、高安地域の魅力を、都市部に伝えられていない、という問題に困っており、高安地区の関係人口を増やし、移住者を増加させること、生態系サービスを活用した商品や体験を開発することにより、生態系サービスの保全を図ると同時に、その魅力を八尾市内外に発信し、その認知度の向上を図るために、NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会、高安中学校区まちづくり協議会、リーラボ、ソラシア、学生団体はちのじ、大阪経済法科大学、八尾市、八尾市内のモノづくり企業が連携して、八尾廃校SATODUKURI BASEの運営及び生態系資源を活用した商品・体験の開発という事業を行います。

これは、廃校、高安の自然、モノづくり企業、間伐材、河内木綿、農産物、河内木綿を使ったプロジェクトで、八尾廃校SATODUKURI BASEの運営や、間伐材を活用した商品開発、河内木綿の商品開発、生態系サービスを活用した体験の開発、マルシェなどの一連の事業です。

この事業を行う事で地域に、訪問者が増加し、関係人口が増加、ゆくゆくは移住者の増加につながります。また、生態系サービスを活用した商品や体験の開発により、間伐材や河内木綿を活用した商品の販売数が増加し、森林整備の継続実施、河内木綿の生産量の増加につながり、結果としてきんたいの保全に繋がります。その結果、週末になると若い家族が高安にオーガニックな農業を体験しにきたり、それをきっかけで移住する家族も出てきます。また、それと同時にため池でニッポンバラタナゴが泳ぎまわる景色が当たり前になっているという未来につながります。

ストーリー

『八尾廃校SATODUKURI BASEの運営及び生態系資源を活用した商品・体験の開発』は、高安地域に週末になると若い家族が高安にオーガニックな農業を体験しにきたり、それをきっかけで移住する家族が出てくるような環境をつくること、またそれと同時にため池でニッポンバラタナゴが泳ぎまわる景色が当たり前になっていることを目指して、都市の住民を対象として、高安の生態系サービスに関わる商品と体験の開発、また発信拠点を整備する事業です。

高安地域は、都市近郊の里山であり、ニッポンバラタナゴに象徴される豊かな生態系が残っているにも関わらず、その認知度は八尾市内、大阪市内においても高くありません。はじめに、高安地区の廃校を活用した「八尾廃校SATODUKURI BASE」という拠点を整備し、そこできんたい廃校博物館や木育、木綿カフェ、などを通じて高安の生態系サービスについて体験を通して情報発信を行います。また、生態系サービスを活用した商品開発を行うことで、里山の活用を通して保全ができる資金の調達、河内木綿などの無農薬の農業を広げることによる環境の保全を実現します。

これまでの取組に、八尾市内のモノづくり企業の技術が加わることで、新たな商品の可能性を探り、より売れる商品を開発をし、その結果、担い手の増加、継続した活動の実現を目指します。今回、整備している「八尾廃校SATODUKURI BASE」は高安地域と八尾市のモノづくり企業の技術力を発信する拠点となり、高安地区の関係人口、移住者の増加に寄与することを考えています。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	週末になると若い家族が高安にオーガニックな農業を体験しにきたり、それをきっかけで移住する家族も出てくる。また、それと同時にため池でニッポンバラタナゴが泳ぎまわる景色が当たり前になっている。	・八尾廃校SATODUKURI BASEを継続運営するための資金調達及び運営方法の確立が必要
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高安の生物多様性を伝えたいが十分な場の整備ができていない。 ・間伐はしているが、材木として使えていない。 ・タナゴの保全のためには、無農薬の農家が増えて欲しい。 ・高安地域の魅力を、都市部に伝えられていない。 	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	<ul style="list-style-type: none"> ・高安地区の関係人口を増やし、移住者を増加するため。 ・生態系サービスを活用した商品や体験を開発することにより、生態系サービスの保全を図ると同時に、その魅力を八尾市内外に発信し、その認知度の向上を図る。 	
④地域資源	廃校、高安の自然、モノづくり企業、間伐材、河内木綿、農産物、河内木綿	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	都市部の住民を対象に、以下の事業を行います。 八尾廃校SATODUKURI BASE 間伐材を活用した商品開発 河内木綿の商品開発 生態系サービスを活用した体験の開発 中庭マルシェ	
⑥担い手 (Who)	NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会、高安中学校区まちづくり協議会、リーラボ、ソラシア、学生団体はちのじ、大阪経済法科大学、八尾市、八尾市内のモノづくり企業、	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> ・八尾廃校SATODUKURI BASEの運用⇒高安地域への訪問者の増加⇒生態系の魅力に共感した関係人口増加⇒生態系の魅力に共感した移住者増加 ・間伐材を活用した商品開発⇒間伐材を活用した商品の販売数の増加⇒森林整備活動の継続のための資金確保⇒高安山の水源の地保全⇒きんたいの生息できるため池の保全 ・河内木綿の商品開発⇒河内木綿の商品販売数の増加⇒河内木綿の生産量の増加⇒無農薬で育つ河内木綿の生産量の増加により、きんたいの生息できるため池の保全につながる ・生態系サービスを活用した体験の開発⇒高安への訪問者増加⇒高安の生態系サービスに対する認知度の向上⇒生態系の魅力に共感した関係人口増加⇒生態系の魅力に共感した移住者増加 ・中庭マルシェの実施⇒高安地域への訪問者の増加⇒生態系の魅力に共感した関係人口増加⇒生態系の魅力に共感した移住者増加 ・中庭マルシェの実施⇒高安の生態系資源の認知度向上⇒生態系サービスを利用した商品や体験の販売数が向上⇒継続した環境保全活動につながる 	・八尾市内のモノづくり企業
⑧事業で生じる成果	短期：高安地区への訪問者の増加、メディア掲載数増加、河内木綿の生産量（反数）の増加、キンタイ米の作付け面積の増加、生態系資源を利用した商品のアイテム数の増加、移住者の増加 長期：関係人口の増加、移住者の増加、河内木綿の生産量（種付きの綿）の増加、キンタイ米の販売量の増加、生態系資源を利用した商品の販売収益が増加	

事業名称 2 : 廃校エコツアー

あらすじ

高安地域は、駅から遠い場所が多く、移動が不便である、高安地域の魅力を、都市部に伝えられていない、という問題に困っており、高安地区の生態系資源及び歴史・文化の魅力を感じてもらうことによって、高安地区の関係人口を増やし、移住者を増加するためのために、NPO法人ナック、NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会、高安中学校区まちづくり協議会、リーラボ、八尾市が連携し、廃校エコツアーという事業を行います。

これは、高安の史跡、アクトランドYAO、高安の自然、農産物、シェアサイクル、廃校を使ったエコツアー及び校庭キャンプです。

この事業を行う事で、高安地区の生態系資源及び歴史・文化の魅力の認知度が向上し、関係人口の増加、移住者の増加につながります。そうなることで、週末になると若い家族が高安にオーガニックな農業を体験しにきたり、それをきっかけで移住する家族も出てくることにつながります。

ストーリー

廃校エコツアーは、高安地域に週末になると若い家族が高安にオーガニックな農業を体験しにきたり、それをきっかけで移住する家族が出てくるような環境をつくることを目指して、都市の住民を対象として、高安地域の生態系資源及び歴史・文化の魅力に触れていただく日帰りのツアー及び校庭キャンプを組み込んだ宿泊型のイベントを行う事業です。

高安地域は、都市近郊の里山であり、ニッポンバラタナゴに象徴される豊かな生態系が残っています。また、しおんじやま古墳や高安城をはじめとした歴史・文化遺産も多く残る地域です。それにも関わらず、その認知度は八尾市内、大阪市内においても高くありません。また、高安地域を巡るには移動の手段が不便だという課題があります。

事業1において整備した拠点『八尾廃校SATODUKURI BASE』を出発地点として、高安地域の豊かな自然と歴史・文化遺産を巡ることで、高安地域の魅力を都市部に伝えたいと思っています。また、廃校という特性を生かして、その雰囲気の中で宿泊のできる校庭キャンプを実施することによって、より魅力を伝えることができると考えています。移動手段の不便さは、廃校をシェアサイクルの拠点とすることで解消することを考えています。

そうすることで、高安地域への訪問者が増加し、関係人口の増加、移住者の増加によって、高安小中学校の生徒数が増加することを目標としています。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	週末になると若い家族が高安にオーガニックな農業を体験しにきたり、それをきっかけで移住する家族も出てくる。	廃校にシェアサイクルの拠点が無い。
②課題	・高安地域は、駅から遠い場所が多く、移動が不便である。 ・高安地域の魅力を、都市部に伝えられていない。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	・高安地区の生態系資源及び歴史・文化の魅力を感じてもらうため ・高安地区の関係人口を増やし、移住者を増加するため	
④地域資源	高安の史跡、アクトランドYAO、高安の自然、農産物、シェアサイクル、廃校	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	都市部の住民を対象に、以下の事業を行います。 エコツアーの実施、校庭キャンプの実施	
⑥担い手 (Who)	NPO法人ナック、NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会、高安中学校区まちづくり協議会、リーラボ、八尾市	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	エコツアーの実施⇒高安地区の生態系資源及び歴史・文化の魅力の認知度が向上⇒生態系の魅力に共感した関係人口の増加⇒生態系の魅力に共感した移住者の増加	シェアサイクルを行っている事業者
⑧事業で生じる成果	短期：高安地区への訪問者の増加、メディア掲載数増加、 長期：関係人口の増加、移住者の増加	

事業名称3：高安の生態系サービスを活用したモデルハウスの整備・地域内でのエネルギー自給のための基盤を構築

あらすじ

・高安地域には造園業者が多く、その造園業者から排出される剪定枝はエネルギー資源としてのポテンシャルはあるものの、エネルギー資源として地域では活用されず焼却工場にて焼却されている。

・地域経済循環分析によると、エネルギー代金の流出が年間500億円（2013年）であり、現状は市域内のエネルギーは域外から調達している。

・高安山における森林整備ボランティアの育成において、後継者不足に課題があるとともに、その整備活動によって生み出される間伐材はエネルギー資源として広域的に活用されていない。

・八尾市域全体から見ると、家庭部門からの温室効果ガス排出量の削減が最も求められており、脱炭素型ライフスタイル・エネルギー自給によるライフスタイルへの転換にかかる普及促進のための効果的（実行力のある）施策を実施できていない。また、八尾市の人口は減少していることに反し、世帯数は増加傾向にあり、一人あたりのエネルギー消費量は1990年実績と比較して、1.2倍に増加している。

などの問題に困っており、高安地域における生態系サービスのポテンシャルを活かしたエネルギー自給型（自立分散型）ライフスタイルの転換を普及させるため、NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会、高安中学校区まちづくり協議会、ソラシア（不動産）、リーラボ（リフォーム）、造園業者、八尾市が高安の生態系サービスを活用したモデルハウスの整備・地域内でのエネルギー自給のための基盤を構築をめざします。

これは、高安の生態系サービス（間伐材・剪定枝）、空き家、休耕地、オーガニック食材（農産物）、河内木綿、ものづくり企業の環境配慮型製品を活用し、①高安の空き家を活用したエネルギー自給・持続的な農業と文化が共生した暮らしができるモデルハウス体験プログラムの実施、②生態系サービスの活用による環境に配慮したエネルギーの提供を行うものです。

この事業を行うことで、①体験プログラムを通じて魅力を感じた人たちが生態系サービスを活用したライフスタイルを行い、持続的な高安の生態系の保全・二酸化炭素排出量削減によって、気候変動対策により風水害リスクなどが低減し、地域住民の持続可能な暮らしにつながります。また、②自立分散型社会構築のための意見交換・ネットワークの構築を行うことで、生態系サービスのポテンシャルの把握しながら、生態系サービスによるエネルギー自給・生態系サービス活用によるエネルギーを地域へ還元し、持続的な高安の生態系の保全・二酸化炭素排出量削減によって、気候変動対策により風水害リスクなどが低減し、地域住民の持続可能な暮らしにつながることで、2050年度には排出量実質ゼロにつながり、高安の空き家を活用したエネルギー自給、持続的な農業と文化が共生した暮らしを営み、高安の生態系サービスを活用したエネルギーが市域の住宅・工場で使われ、ゼロカーボンシティが実現しています。

ストーリー

①高安地域における生態系サービス（間伐材、剪定枝、自然エネルギー、河内木綿）のポテンシャルを活かしたエネルギーの自給、持続的に農業と文化が共生したパーマカルチャーによる持続可能な暮らしを実現すること、②生態系サービスが八尾市域で活用され、市域内の電力などのエネルギーを市域で自給する自立分散型社会の基盤を構築することをめざします。

①生態系サービスのポテンシャルを活かしたエネルギーの自給、持続的に農業と文化が共生したパーマカルチャーによる持続可能な暮らしの実現

八尾市域における脱炭素型ライフスタイルの普及を目指して、都市の住民を対象として、高安地域の生態系資源の活用及び歴史・文化の魅力に触れることができるエネルギー自給とパーマカルチャーを掛け合わせたライフスタイル（科学と自然が共生したライフスタイル）の体験事業を実施します。

エネルギー自給とパーマカルチャーによる持続可能な暮らし（科学と自然が共生したライフスタイル）の体験事業をタナゴファームのログハウスでパイロットとして展開し、高安地域での空き家や古民家を活用した持続可能な暮らしができるモデルハウスやZEHモデルハウスを整備します。モデルハウスでは、持続可能な高安の生態系サービス・文化や八尾の産業に触れる機会として、間伐材を活用した薪ストーブ・太陽光発電によるエネルギーの自給・河内木綿でできた衣服・パーマカルチャーで採れるオーガニック食材・バイオ燃料によるハリケーンランプなどを使う暮らし・環境を創出し、衣食住すべてでエネルギー自給とパーマカルチャーによる持続可能な暮らしを体験していただきます。

②生態系サービスが八尾市域で活用され、市域内の電力などのエネルギーを市域で自給する自立分散型社会の基盤の構築

・ポテンシャルの把握

高安地域は、都市近郊の里山であり、ニッポンバラタナゴに象徴される豊かな生態系が残っており、その生態系を保全するための森林整備やため池の保全活動が15年以上続いています。森林整備活動による間伐材を活用し、モデルハウスの再生可能エネルギーとして活用してもらえるよう生態系サービスの循環と生態系保全を目指し、その人材育成を行います。高安地域の生態系サービスの自然エネルギーとしての資源のポテンシャルをフェルミ推定などによる簡易的な推定を行い、どの程度見込めるかの可能性を探ります。

・生態系サービスの活用にあたっての人材の育成・確保

森林ボランティアの人材育成にあたっては、このモデルハウスの整備事業に共感してもらえるような企画を実現し、まずは共感者を募ります。共感者から協力者へとってもらえるよう、森林環境譲与税の活用やESG金融などの資金調達の検討をしながら、人材育成にかかる費用や活動費用の資金の流れ、持続可能な資金運用、人材確保を実現します。

・エネルギー自給のための基盤の構築に向けた検討

生態系サービスが八尾市域で活用され、市域内で生態系サービスなどのエネルギーが循環するライフスタイルの基盤を構築することをめざします。ごみ焼却場などの既存焼却施設や発電設備で発電されたエネルギーを地域へ還元できるか、還元できるとすればどの程度で還元され、地域資源の活用につながるかを研究・検討を行います。

上記2の取組を実践し、モデルハウスをアンテナとした都会派里山暮らしの発信、八尾市域におけるエネルギー自給の基盤を構築を行い、高安地域の持続化可能な暮らしの魅力を伝え、都会派里山暮らしによる自律分散型社会を実現することを目標としています。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	①高安の空き家を活用したエネルギー自給、永続的な農業と文化が共生した暮らし ②高安の生態系サービスを活用したエネルギーが市域の住宅、工場で使われている ③ゼロカーボンシティの実現	・モデルハウスとなる空き家の確保 リフォームを行うための資金調達 ・ZEHモデルハウスの設置費用の確保 ・生態系サービス（剪定枝・間伐材）を活用する上でのコンプライアンスの確認
②課題	・高安地域の生態系サービス（剪定枝・間伐材）が資源として活用されていない。 ・市域内のエネルギーは域外から調達している。 ・森林整備ボランティアの持続的な資金確保・人材確保。 ・脱炭素型ライフスタイルの持続可能な暮らしの魅力を、八尾市内に伝えられていない。	・高安山の間伐材の切り出しで、木材を下す作業環境・資金（切り出して、4t車で運搬して20万円要する） ・既存焼却施設での発電の可能性を検討するにあたっての広域な行政機関間での連携・調整
③なぜこの事業をやるのか（Why）	高安地域における生態系サービスのポテンシャルを活かしたエネルギー自給型（自立分散型）ライフスタイルの転換を普及させるため	・焼却施設や発電設備で発電した電力を売電するための基盤整備
④地域資源	高安の生態系サービス（間伐材・剪定枝）、空き家、休耕地、オーガニック食料（農産物）、河内木綿、ものづくり企業の環境配慮型製品	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	高安の空き家を活用したエネルギー自給・永続的な農業と文化が共生した暮らしができるモデルハウス体験プログラムの実施 生態系サービスの活用による環境に配慮したエネルギーの提供	
⑥担い手（Who）	NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会、高安中学校区まちづくり協議会、ソシア（不動産）、リーラボ（リフォーム）、造園業者、八尾市	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	①タナゴファームでのパイロット事業⇒モデルハウスを整備⇒生態系サービスを活用したライフスタイルに共感する人たちの増加⇒高安の暮らしに憧れる都市近郊住民からの移住⇒生態系サービスの活用の促進⇒生態系サービス活用による収益を森林整備ボランティアの持続的な活動資金として運用⇒持続的な高安の生態系の保全⇒二酸化炭素排出量削減による気候変動対策⇒気候変動対策により風水害リスクなどが低減⇒地域住民の持続可能な暮らしにつながる ②ゼロカーボンシティ宣言し、ゼロカーボンシティをめざした関係団体が構成される新たなプラットフォームを構築。また市内横断的な組織も並行して構築⇒プラットフォームでの自立分散型社会構築のための意見交換・ネットワークの構築⇒生態系サービスのポテンシャルの把握⇒焼却工場・発電施設の利用について研究・検討⇒生態系サービスによるエネルギー自給⇒生態系サービス活用によるエネルギーを地域へ還元⇒生態系サービス活用による収益を森林整備ボランティアの持続的な活動資金として運用⇒持続的な高安の生態系の保全⇒二酸化炭素排出量削減による気候変動対策⇒気候変動対策により風水害リスクなどが低減⇒地域住民の持続可能な暮らしにつながる	・大阪府広域環境施設組合（焼却工場の施設管理者） ・エネルギー供給事業者 ・森林整備活動への協力者（造園業者、企業）
⑧事業で生じる成果	短期： 長期：市域の二酸化炭素排出量2013年度比26%以上削減【2030年度目標】 市域の二酸化炭素排出量実質ゼロ【2050年度目標】	